

# 2017年度事業計画

自2017年4月 1日

至2018年3月31日

公益財団法人久留米文化振興会

## I. 事業活動方針

当財団が管理・運営する石橋文化センターは株式会社ブリヂストンの創業者であり、久留米市名誉市民である石橋正二郎氏が「世の人々の楽しみと幸福の為に」と地域の発展を願い、1956年に建設、久留米市に寄贈した複合文化施設です。

開園60周年の節目を迎えた昨年度は、石橋文化センターの中心施設である石橋美術館の運営が公益財団法人石橋財団から久留米市に移行され、2016年10月に久留米市美術館として新たにスタートしました。別館は石橋正二郎氏の足跡を紹介する「石橋正二郎記念館」として開館しました。当財団は、指定管理者として「新たな美術館の基本方針」に基づき、市民に「自分たちの美術館」として親しまれる公立美術館を目指し、魅力ある展覧会や事業を展開していきます。

同じく昨年度、石橋文化センターの新たなブランディングを構築し、園内を6つの特徴あるゾーンに分け、ガーデンテラスの新設やベンチ等の更新を行いました。今年度は、四季折々の草花に加え、このゾーニングを活かした事業やホール、図書館などの園内の各施設とも連携した事業に取り組み、美術館の基本方針のコンセプトの1つである「石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動」を推進していきます。

当財団は、寄贈者石橋正二郎氏の理念に基づき、石橋文化センターがより多くの人々に「楽しみと幸福の時間。」を感じていただけるよう事業を実施していきます。

## Ⅱ. 重点的な取組み

### 1. 新たな美術館の基本方針に基づく事業推進

#### (1) 郷土の歴史をふまえた特徴あるコレクション形成

久留米市の収集方針に基づく作品収集のため、候補作品を久留米市に提案し、特徴あるコレクション形成に寄与する。

#### (2) 魅力ある展覧会や教育普及活動の展開

- ・公益財団法人石橋財団の特別助成による「川端康成 美と文学の森」と「石橋財団コレクション展」の実施
- ・特別展や巡回展の実施(夢の美術館めぐりあう名画たち、東郷青児展など)
- ・本館1階を活用した企画展の実施(星野道夫展)

#### (3) 石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動の推進

久留米市美術館開館を契機として始めたミュージアム化事業を推進し、市民の美術館として世代を超えて親しみを持っていただけるよう取り組む。

##### ①園内の環境を活かした展覧会との連携事業

- ・園内全域を活用したアートフェスティバル
- ・ガーデンテラスなどゾーニングを活かした事業
- ・クリスマスミュージアムでのライトアップなど季節をとらえた事業

##### ②未来へつなぐ創造事業

- ・アーティストと子どもたちによるアート創造プロジェクト
- ・アーティストを志す大学生等への創作活動支援プロジェクト

##### ③エリア内各施設との連携事業

- ・庭園、図書館、文化ホールとの連携事業

##### ④開園、開館記念事業の実施

- ・石橋文化センター開園記念日の美術館無料入館実施
- ・久留米市美術館開館1周年記念事業の実施

#### (4) 市民と共に創り育てる仕組みづくり

##### ①新たな友の会制度の構築

美術館への年間フリーパス制度(ミュージアム会員)を加えた新たな友の会制度を立ち上げ、美術館のファン層拡大に努める。

## ②新たな協賛制度の構築

企業からの支援を募り事業拡大を図るとともに、企業内研修での久留米市美術館、石橋正二郎記念館の利用を推進する。

また、市内の大学、高校に「キャンパスパートナー※1」への加入を働きかけ、若い世代の美術館への関心を高める。

### ※1 キャンパスパートナー

大学、高校などに協賛を募り、学生の美術館入館無料などの特典を設ける制度

## (5) 石橋正二郎記念館の積極的な活用

- ・小中学生の美術館来館時の石橋正二郎記念館の活用
- ・企業・団体の研修利用推進
- ・コンサートや映画会などの開催

## 2. 石橋文化センターブランディングの推進

久留米市美術館開館を契機に新たに導入したブランディングを推進し、石橋文化センター全体のブランドイメージを高める。

また、ゾーニングやステートメントを積極的に活用し、様々な媒体を通じ発信していく。

## 3. 広報・情報発信の強化

### ①マスコミへの情報発信

展覧会におけるプレスリリースのみならず、ミュージアム化事業等においても積極的なマスコミへの情報発信を行い、石橋文化センター全体の事業への関心を高めていく。

### ②ソーシャルメディアの活用

Web での情報発信に加え、石橋文化センターと久留米市美術館の2つのfacebookを活用し、タイムリーな情報発信に努める。

### ③石橋文化センター以外での情報発信

駅や市内でのサイン設置に加え、新たな場所での情報発信を模索する。

## 4. 久留米シティプラザとの連携

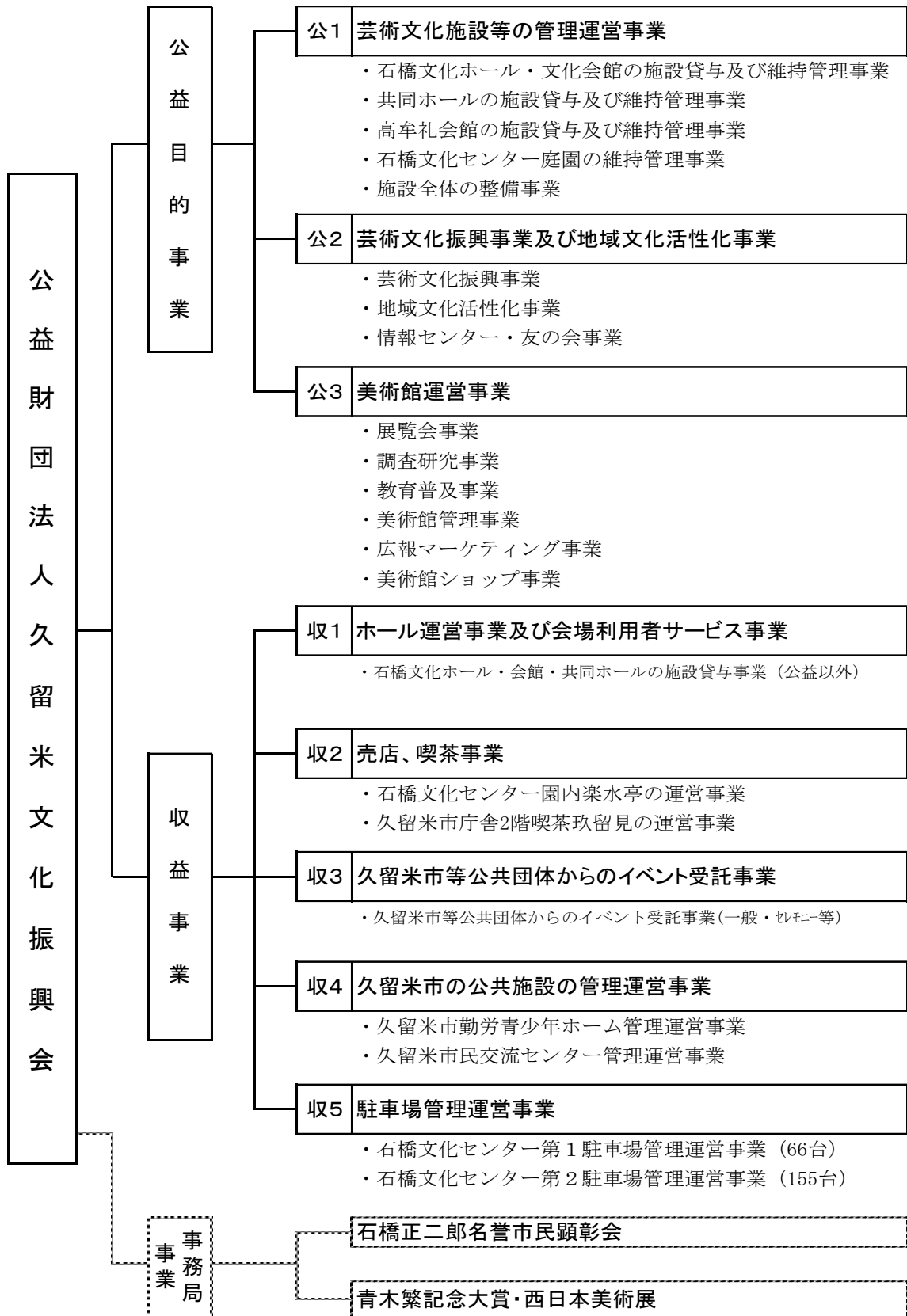
2年目を迎える久留米シティプラザと相乗効果を発揮できるよう連携体制の構築について検討する。

## 5. 組織体制の強化

2016年10月の組織統合を踏まえ、振興会規程等に基づく組織運営の徹底と組織の一体化を図る。

### Ⅲ. 事業内容

【公益財団法人久留米文化振興会事業体系】



## 【公益目的事業】

### 1. 芸術文化施設の管理運営事業

石橋文化センター諸施設並びに高牟礼会館の維持管理及び施設貸与事業を行うことにより、芸術文化の振興と地域文化の活性化に取り組む。

また、久留米市美術館への来場者増加に繋がるホール事業(貸館事業含む)との連携を推進する。

#### (1) 施設の貸与事業

直接窓口で利用者の声を伺うことで、市民のニーズを的確に把握し、公平性、透明性を確保しながら、利用者の創造性が十分に発揮できるように柔軟性をもった施設運営を行う。

##### ①石橋文化ホール・文化会館・共同ホール

安心、安全を基本とし、それぞれのホールの特性を熟知した専門性を有するスタッフを配置することで、利用者の立場に寄り添ったサービス提供を行う。

また、フェイスブックやホームページなどを通じて、新たなサービスやセット料金などを提案し、更なる利用を促進する。

##### ②高牟礼会館

伝統ある高牟礼会館では、老朽化に伴う修繕など、迅速かつ細やかに対応し、安心、安全を確保する。また、高牟礼会館を拠点に活動するサークル団体の利用時間の調整など、積極的なサポートを行う。

#### (2) 施設の維持管理

##### ①庭 園

新たに設定した園内のゾーニングに基づく庭園管理を行い、「石橋文化センター全体のミュージアム化」をハード面から推進していく。また、展覧会や園内で実施する事業を考慮した維持管理に努めるとともに、ガーデンサポーター等、市民ボランティアとの協働による四季を通じた魅力創出により入園者拡大に努める。

##### ②施設整備事業

各施設の安全面を維持するための整備を行う。

## 2. 芸術文化振興事業及び地域文化活性化事業

ホールや園内で行う文化事業と美術館事業を連携し、石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉え事業を展開し、相乗効果を生み出していく。

### (1) 芸術文化振興事業

ホールでの鑑賞事業や市民の発表の機会を提供する事業に加え、美術館と連携した事業に取り組む。

#### A. 国内外の優れた芸術・舞台公演の鑑賞機会を提供する事業

- ・千住真理子 気軽にクラシック（ヴァイオリン）予定
- ・ドラゴンクエストコンサートの世界 in 久留米（オーケストラ）
- ・ザ・クロマニヨンズ（共催事業）

#### B. 市民参加の文化振興事業

- ・第28回くるめ新人演奏会（新人音楽家によるコンサート）
- ・第29回くるめ音楽祭（吹奏楽祭・合唱祭・アンサンブルフェスティバル）
- ・第46回ニューイヤール・バンド・フェスティバル（吹奏楽合同バンド）

#### C. 石橋文化センターミュージアム化事業

- ・ミュージアムコンサート（展覧会に合わせ年6回程度）
- ・石橋文化センターアートフェスティバル
- ・季節に合わせたミュージアムイベント（クリスマス、バレンタイン等）

#### D. 次代を担う世代とともに行う振興事業～未来への種をまく事業～

- ・石橋文化センタースケッチ大会
- ・古典芸能、音楽等の体験を行う学校への芸術家等派遣事業（受託事業）

### (2) 地域文化活性化事業

#### A. 石橋文化センター園内の花や美術館を活用した市民参加の事業

四季折々の魅力をテーマとした事業を展開し、集客向上を目指す。

- ①バラフェア（春・秋）
- ②はなしょうぶまつり
- ③春の花まつり「梅まつり」「つばきまつり」「SAKURAまつり」

#### B. 久留米市内の各地域でコンサート等を実施する市民参加の事業（受託）

市民に音楽に触れる機会や環境を提供することによって、久留米市が目指す「音楽で人と街を元気にする」という基本コンセプト実現に向け、市内各所でコンサート等を実施するとともに、若手の人材育成を図る。

- ・くるめ街かど音楽祭
- ・くるめライブチャレンジ

(3) 情報センター・友の会事業

A. 情報誌の発行・ホームページの運営

情報誌「みどりのリズム」を毎月発行する。

ホームページに加え、フェイスブックを活用した情報発信を行う。

B. 友の会事業

美術館の年間フリーパスなどを取り入れた新たな友の会制度を構築する。

3. 美術館運営事業

2016年11月に新たに開館した久留米市美術館と石橋正二郎記念館を、「新たな美術館の基本方針」に基づき、市民に親しまれる美術館を目指し、指定管理者として管理運営を行う。

(1) 展覧会事業

〔2階〕①川端康成 美と文学の森 ※公益財団法人石橋財団特別助成

4月1日(土)～5月21日(日)

②夢の美術館めぐりあう名画たち

6月3日(土)～7月16日(日)

③じっと見る ブリヂストン美術館収蔵作品より

※公益財団法人石橋財団特別助成

7月29日(土)～11月5日(日)

④生誕120年東郷青児展

11月23日(木)～2月4日(日)

⑤コレクション展

2月13日(火)～3月25日(日)

〔1階〕没後20年特別展 星野道夫の旅

8月5日(土)～9月3日(日)

(2) 石橋正二郎記念館の運営

石橋正二郎名誉市民を顕彰する「石橋正二郎記念館」を通じ、寄贈者の足跡や文化センターの歴史等を市民に紹介する。

また、石橋コレクションの中からテーマに添った4作品を展示する。

①藤島武二 4月1日(土)～7月23日(日)

②初期収集作品 7月29日(土)～11月12日(日)

③西洋美術への関心 11月23日(木)～4月1日(日)

(3) 調査研究事業

- ・作品収集、保存・修復のための調査研究
- ・作家・作品及び展覧会企画のための調査研究

- (4) 教育普及事業
  - ・ 展覧会に関する美術講座の開催
  - ・ 小中学生の美術館鑑賞受入や美術分野の体験講座の開催
  - ・ 美術館ボランティアの研修
  - ・ アーティストと子どもたちによるアート創造プロジェクト
  - ・ アーティストを志す大学生等への創作活動支援プロジェクト
- (5) 美術館管理事業
  - ・ 作品鑑賞にふさわしい空間のための建物、空調設備などの維持管理
  - ・ ギャラリー貸与事業
- (6) 広報マーケティング事業
  - ・ 美術館及び美術館活動に関する情報発信
- (7) 美術館ショップ事業
  - ・ 所蔵品や展覧会の図録、関連書籍、こども向け画材などの販売
  - ・ 絵はがきや作品を配したオリジナル商品の販売

#### 4. 協賛制度

久留米市美術館開館を契機とした、「石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動」など新たな事業を推進し、「楽しみと幸福の時間。」を創出していくために、多くの企業、団体、個人の皆様から協賛を募る。

協賛制度は、久留米市美術館と石橋文化センター事業等の支援と入園者及び入館者数の拡大を図ることを目的とする。

- (1) 一般協賛（企業、団体、個人）  
1口 30,000円
- (2) オフィシャルパートナー（企業、団体）  
Aコース 1口 300,000円  
Bコース 1口 500,000円
- (3) スペシャルパートナー（特定企業）  
1口 600,000円
- (4) キャンパスパートナー（学校法人）  
在学学生数に応じた金額



## 【収益事業】

### 1. ホール運営事業及び会場利用者サービス事業

会場利用に際し、付随するサービス（看板や追加備品、装飾など）を積極的に提案し、利用者の負担軽減と包括的なサービス提供による利便性向上に努める。

### 2. 売店・喫茶事業

公共施設の中にある店舗であることを念頭に置き、収益の確保に努めるとともに、市民が利用しやすいメニュー構成や魅力的な地域食材の活用に取り組むとともに価格設定にも配慮する。

#### (1) カフェ・ギャラリーショップ「楽水亭」（園内）

久留米市美術館の展覧会にちなんだギャラリーショップ商品を取りそろえるとともに、園内のミュージアム化事業と連携し利用者の拡大を狙う。

#### (2) 喫茶「玖留見」（市庁舎2階）

魅力的な月替わりメニューを提供するなどリピーターを確保し、収益の確保に努める。

### 3. 久留米市等公共団体からのイベント受託事業（一般事業受託）

久留米市が主催する記念式典や開通式、表彰式など、当財団の事業ノウハウを活用し、公共イベントの円滑な運営に寄与する。

### 4. 久留米市の公共施設の管理運営事業

#### (1) 久留米市勤労青少年ホーム

指定期間が2年延長され3年から5年となったことを受け、引き続き、石橋文化センターでの施設管理の経験とノウハウを活かし、効率的に管理運営を行い、施設の特性を最大限に引き出すことで利用者の増加を促進する。

#### (2) 久留米市民交流センター（久留米市庁舎2階）

4期目となる指定期間（3カ年）の2年目であり、引き続き、新たな自主事業を実施しながら、引き続き、効率的に管理運営を行い、市民サービスの向上を図る。

### 5. 駐車場管理運営事業

石橋文化センターエリア全体の情報及び観光バスを含む駐車場混雑状況を事前に集約し、適切な配置及び周辺施設との連携により、混雑防止対策を講じ、利用者サービス向上を図る。

### 【事務局事業】

郷土に生まれた先達の功績を顕彰し、全国へ向けて発信するとともに、創作活動を奨励し、芸術文化のさらなる活性化に寄与する。

主に以下の事業の事務局機能を担い、実行委員会を主体としながら、関係団体との調整を十分に図り、効率的な運営と事業促進に努める。

1. 石橋正二郎名誉市民顕彰会
2. 青木繁記念大賞・西日本美術展